



Cisco Media Experience Engine 3500 ハードウェア インストールガイド

Hardware Installation Guide for Cisco Media Experience Engine 3500

2010 年 3 月 2 日

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。**

**本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップ
デートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合があ
りますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サ
イトのドキュメントを参照ください。**

**また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊
社担当者にご確認ください。**

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述: この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述: この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、有害な干渉を防止する適切な保護を規定したものです。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。この装置がラジオまたはテレビの受信に干渉を引き起こすかどうかは、この装置の電源をオフにしてからオンにすることによって判別できます。干渉する場合は、次の方法で干渉が起きないようにしてください。

- 受信アンテナの向きを変えるか、または位置を変えます。
- 装置と受信機の距離を離します。
- 受信機を接続しているのは別の回路のコンセントに装置を接続します。
- 代理店またはラジオ/テレビの技術者に相談します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うこととなります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任は一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco HealthPresence, Cisco IronPort, the Cisco logo, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Nurse Connect, Cisco StackPower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flip Video, Flip Video (Design), Flipshare (Design), Flip Ultra, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Store, and Flip Gift Card are service marks; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0907R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Media Experience Engine 3500 ハードウェア インストール ガイド
© 2008–2010 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2008–2010, シスコシステムズ合同会社.
All rights reserved.



CONTENTS

はじめに	v
対象読者	v
マニュアルの構成	v
表記法	vi
関連資料	vi
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	vii
マニュアルに関するフィードバックの提出	vii

CHAPTER 1

概要	1-1
----	-----

CHAPTER 2

Cisco MXE 3500 の設置	2-1
設置の準備	2-2
設置に関するガイドライン	2-2
ラックに関する要件	2-3
必要な工具	2-3
サーバの開梱と点検	2-3
ラックへのサーバの設置	2-4
サーバの接続と電源投入	2-7
BIOS の設定および BIOS ファームウェアの更新	2-8
BIOS メニュー項目の設定の変更	2-8
BIOS セットアップ ページの説明	2-9
BIOS ファームウェアの更新	2-9

CHAPTER 3

Cisco MXE 3500 の保守	3-1
ステータス LED	3-1
前面パネル LED	3-2
背面パネル LED	3-3
内部 LED	3-5
ラック内のサーバの交換	3-6
必要な工具	3-7
サーバのシャットダウンおよび電源オフ	3-7
ラック内のサーバの取り出しと交換	3-8

APPENDIX A	ケーブルおよび電源コードの仕様	A-1
	KVM ケーブル	A-1
	サポートされている電源コードとプラグ	A-2

APPENDIX B	技術仕様	B-1
	物理的仕様	B-1
	環境仕様	B-2
	電源仕様	B-2



はじめに

ここでは、このガイドの対象読者、構成、表記法を説明するほか、関連資料の入手方法も説明します。

- 「対象読者」 (P.v)
- 「マニュアルの構成」 (P.v)
- 「表記法」 (P.vi)
- 「関連資料」 (P.vi)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.vii)
- 「マニュアルに関するフィードバックの提出」 (P.vii)

対象読者

このインストレーション ガイドは、電子回路や配線作業に関する知識がある方や、電子機器や電気機械設備を取り扱った経験のある技術者を対象としています。

マニュアルの構成

このガイドの構成は次のとおりです。

章	タイトル	説明
第 1 章	「概要」	Cisco MXE 3500 の概要を説明します。
第 2 章	「Cisco MXE 3500 の設置」	サーバをラックに取り付ける方法、サーバのケーブル接続と電源投入の方法、サービス プロセッサおよびネットワークへの接続方法を説明します。
第 3 章	「Cisco MXE 3500 の保守」	サーバの交換可能なコンポーネントを挙げ、その交換方法を説明します。
付録 A	「ケーブルおよび電源コードの仕様」	サーバの物理的仕様と、環境および電源の仕様が記載されています。
付録 B	「技術仕様」	サーバの KVM ケーブルと電源コードの仕様が記載されています。

表記法

このマニュアルでは、注釈、注意、安全上の警告に次の表記法を使用しています。
「注釈」と「注意」には、ユーザが知っておく必要がある重要な情報が記載されています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

誤って行くと負傷する可能性のある作業については、安全上の警告が記載されています。各警告文に、警告を表す記号が記されています。



Warning

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

This warning symbol means danger. You are in a situation that could cause bodily injury. Before you work on any equipment, be aware of the hazards involved with electrical circuitry and be familiar with standard practices for preventing accidents. Use the statement number provided at the end of each warning to locate its translation in the translated safety warnings that accompanied this device. Statement 1071

SAVE THESE INSTRUCTIONS

警告 安全上の重要な注意事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策に留意してください。警告の各国語版は、各注意事項の番号を基に、装置に付属の「Translated Safety Warnings」を参照してください。

これらの注意事項を保管しておいてください。

関連資料

この製品のハードウェア関連資料には、次のマニュアルが含まれます。

- 『*Quick Start Guide for Cisco Media Experience Engine 3500*』
- 『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Media Experience Engine 3500*』

Cisco MXE 3500 は、Cisco Media Experience Engine ソフトウェアをサポートしています。

資料の詳細なリストについては、次の URL で『*Guide to Documentation for Cisco Media Experience Engine 3500*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps9892/products_documentation_roadmaps_list.html

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

マニュアルに関するフィードバックの提出

この Cisco MXE 3500 のマニュアルに関するフィードバックを提出したり、誤りや脱落を報告したりするには、オンラインの埋め込みのフィードバック フォームを使用します。このフォームは、このガイドの各章の右上にある「Give us Feedback」リンクをクリックしたときに表示され、次の URL にオンラインでアクセスします。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps9892/prod_installation_guides_list.html

また、フィードバックは mxe-doc@cisco.com に送信してもかまいません。



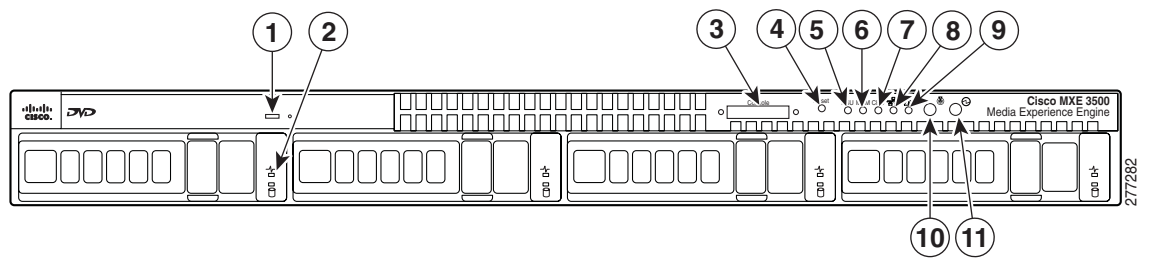
CHAPTER 1

概要

Cisco MXE 3500 アプライアンスは、扱いやすさ、パフォーマンス、密度がバランスよく実現された高密度の 1RU ラックマウント サーバです。

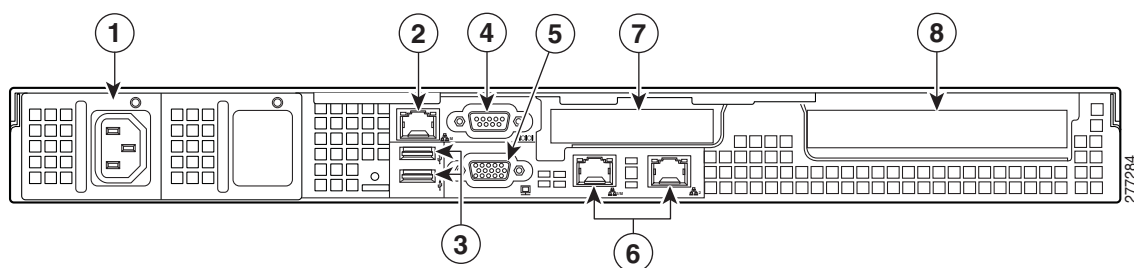
図 1-1 は、前面パネルの外観を示しています。図 1-2 は、背面パネルの外観を示しています。

図 1-1 前面パネルの外観



1	DVD-RW ドライブ (注) 取り外さないでください。	2	ハードドライブ (2 台) (注) 取り外さないでください。
3	コンソール コネクタ	4	リセット ボタン 注意 リセット ボタンは使用しないでください。このボタンを押すと、メモリと CPU の設定がデフォルトにリセットされます。
5	電源装置障害 LED	6	メモリ障害 LED
7	CPU 障害 LED	8	ネットワーク アクティビティ LED
9	システム障害 LED	10	ロケータ ボタン/LED
11	電源ボタン/電源ステータス LED	—	—

図 1-2 背面パネルの外観



1	電源装置 (1 基)	2	10/100 イーサネット管理ポート (RJ-45)
3	USB 2.0 コネクタ (2 個)	4	シリアル コネクタ (DB9)
5	ビデオ コネクタ (DB15 VGA)	6	10/100/1000 ギガビット イーサネット ポート (2 個)
7	ロープロファイル PCIe カード スロット	8	標準プロファイル PCIe カード スロット



警告

インストレーション手順を読んでから、システムを電源に接続してください。
ステートメント 1004

Cisco MXE 3500 のコンポーネントと機能を次に示します。

表 1-1 サーバのハードウェア機能

機能またはコンポーネント	Cisco MXE 3500 サーバ
格納ラック	1 ラック ユニット (1RU) シャーシ
プロセッサ	Intel Xeon プロセッサ E5540 × 2
メモリ	2 GB RDIMM ¹ × 6 (合計 12GB)
ストレージ	300GB 内蔵 SAS ² ハード ドライブ × 2 (注) ハード ドライブを取り出さないでください。
ディスク管理	LSI 1064 ベースのコントローラ メザニン カードによる SAS ドライブの RAID 0 サポート
PCIe I/O	最大 2 枚の PCIe ³ 拡張カード。次の水平ライザー カード ソケットに接続されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ハーフレンクス、8 レーン、標準プロファイルの背面パネルスロット × 1 (ライザー カード使用) • ハーフレンクス、8 レーン、ロープロファイルの背面パネルスロット × 1 (ライザー カード使用)

表 1-1 サーバのハードウェア機能（続き）

機能またはコンポーネント	Cisco MXE 3500 サーバ
ネットワークおよび管理 I/O	<p>このサーバの背面パネルには次のコネクタがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10/100/1000 ギガビット イーサネット ポート × 2 (RJ-45 コネクタ) • 10/100 イーサネット管理ポート × 1 (RJ-45 コネクタ) • DB9 シリアル コネクタ × 1 • DB15 VGA⁴ コネクタ × 1 • USB⁵ 2.0 コネクタ × 2 <p>このほか、前面パネルにコンソール コネクタが 1 つあります (付属の KVM⁶ ケーブルには、DB15 ビデオ コネクタ、DB9 シリアル コネクタ、USB 2.0 コネクタ × 2 を装備)。</p>
リムーバブルメディア デバイス	内蔵 DVD-RW ドライブ × 1
電源	最大出力 650W の電源装置 × 1
冷却装置	内蔵ファン × 5 (前面から背面に強制冷却)。このほか、電源装置ごとにファンが 1 つ装備されています。

1. DIMM = Dual Inline Memory Module (デュアル インライン メモリ モジュール)
2. SAS = Serial Attached SCSI (シリアル接続 SCSI)
3. PCIe = Peripheral Component Interconnect express (ペリフェラル コンポーネント インターコネクト エクスプレス)
4. VGA = Video Graphics Array (ビデオ グラフィックス アレイ)
5. USB = Universal Serial Bus (ユニバーサル シリアル バス)
6. KVM = Keyboard, Video, Mouse (キーボード、ビデオ モニタ、マウス)

物理的詳細、環境に関する詳細、電源の詳細については、「技術仕様」(P.B-1) を参照してください。



CHAPTER 2

Cisco MXE 3500 の設置

この章では、Cisco MXE 3500 の設置方法を説明します。また、この章は次の項で構成されています。

- 「設置の準備」 (P.2-2)
- 「ラックへのサーバの設置」 (P.2-4)
- 「サーバの接続と電源投入」 (P.2-7)
- 「BIOS の設定および BIOS ファームウェアの更新」 (P.2-8)



(注)

Cisco MXE 3500 の設置、操作、保守を行う前に『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco Media Experience Engine 3500*』を参照し、安全上の重要事項を把握してください。



警告

安全上の重要事項

この記号は「危険」を表しています。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。各警告の末尾に記載されているステートメント番号を利用すると、この装置に付属する各国語版の安全上の警告に記載されている、各国語版の警告を見つけることができます。
ステートメント 1071

これらの注意事項を保存しておいてください。



警告

この装置は、出入りが制限された場所に設置されることを想定しています。出入りが制限された場所とは、特殊なツール、ロックおよびキー、または他のセキュリティ手段を使用しないと入室できない場所を意味します。
ステートメント 1017



警告

この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行う必要があります。
ステートメント 1030

設置の準備

ここでは、次の内容について説明します。

- 「設置に関するガイドライン」 (P.2-2)
- 「ラックに関する要件」 (P.2-3)
- 「必要な工具」 (P.2-3)
- 「サーバの開梱と点検」 (P.2-3)

設置に関するガイドライン

サーバを設置するときは、次のガイドラインに従ってください。

- 保守作業および適切なエアフローのための十分なスペースがサーバの周囲にあることを確認します。このサーバのエアフローは前から後ろに向かいます。
- 空調が付録 B 「技術仕様」に記載されている温度の要件に適合していることを確認します。
- キャビネットまたはラックが「ラックに関する要件」 (P.2-3) に記載されている要件に適合していることを確認します。
- 設置場所の電源が付録 B 「技術仕様」に記載されている電源の要件に適合していることを確認します。可能であれば、停電から保護するために Uninterruptible Power Supply (UPS; 無停電電源装置) を使用します。
- 回路の容量が現地および国の規格に準拠していることを確認します。北米では、電源装置には 15A 回路が必要です。
- 施設の標準的な手順で、ラックと建物側のアース端子を確実に接続します。



警告

いつでも装置の電源を切断できるように、プラグおよびソケットにすぐ手が届く状態にしておいてください。

ステートメント 1019



警告

高漏洩電流：システムの電源装置に接続する前に、アース接続を行うことが重要です。

ステートメント 342



警告

装置を電気回路に接続するときに、配線が過負荷にならないように注意してください。

ステートメント 1018



警告

この製品は、設置する建物に回路短絡（過電流）保護機構が備わっていることを前提に設計されています。この保護装置の定格が 250V、20A 以下であることを確認します。

ステートメント 1005



警告

この装置はアースされている必要があります。絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。

ステートメント 1024

**注意**

鉄共振タイプの UPS は使用しないでください。このタイプの UPS は Cisco MXE 3500 などのシステムで不安定になり、変動するデータトラフィックのパターンによりシステムの消費電流が大きく変動することがあります。

**注意**

入力電力の損失を防ぐため、サーバに電力を供給する回路の合計最大負荷が配線とブレーカーの定格電流の範囲内になるようにしてください。

ラックに関する要件

ここでは、標準のオープンラックの要件を説明します。この要件は、周囲温度の範囲が 32 ~ 95°F (0 ~ 35°C) であることを前提としています。

ラックは次のタイプのものでなければなりません。

- 標準の 19 インチ (48.3cm) の 4 支柱 EIA ラックで、マウント支柱の穴の間隔が ANSI/EIA-310-D-1992 セクション 1 に基づく英国ユニバーサルに準拠しているもの。
- 付属の取り付け金具を使用する場合は、ラックの支柱の穴は正方形でなければなりません。

**注意**

付属の取り付け金具を使用してシステムをラックに固定することを推奨します。正しい金具を使用しなかったり、正しい手順に従わなかったりした場合は、システムが損傷することがあります。

- 各サーバの縦方向の最低ラックスペースは、1 Rack Unit (RU; ラックユニット) でなければなりません (4.45cm または 1.75 インチ)。
- サーバ背面の排気孔と壁との間の最低距離は、20.3cm (8.0 インチ) でなければなりません。

必要な工具

シスコシステムズのスライドレールを使用する場合は、工具がなくても設置できますが、設置するときに水平器付きのスケールを使用してスライドレールを水平にすることを推奨します。

サーバの開梱と点検

**ヒント**

後でサーバの発送が必要になったときに備えて、輸送用の箱を保管しておいてください。

**(注)**

シャーンは出荷前に厳密に検査されています。運送中に破損していたり、欠品していたりした場合は、すぐにカスタマーサービス担当者に連絡してください。

梱包内容を検査する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 段ボール箱からサーバを取り出します。梱包資材はすべて保管しておいてください。
- ステップ 2** カスタマー サービスの担当者から提供された機器リストと梱包内容を比較して、欠品がないことを確認します。
- ステップ 3** 破損していないかどうかを確認し、梱包物の不一致や破損をカスタマー サービスの担当者に報告します。次の情報を用意しておきます。
- 出荷元の送り状番号（梱包明細を参照）
 - 破損している装置のモデルとシリアル番号
 - 破損状態の説明
 - 破損による設置への影響

ラックへのサーバの設置

このサーバは、シスコの次のコンポーネントおよび部品番号をサポートしています。

サポートされているコンポーネント	部品番号
スライド レール キット	R200-SLDRAIL

ここでは、サーバをラックに設置する方法を説明します。



注意

ラックにキャスターが付いている場合は、キャスターがロックされているか、その他の方法で固定されていることを確認します。

スライド レールとサーバをラックに取り付ける手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 次の手順に従って、スライド レールをラックに取り付けます。



ヒント

スライド レールとラックを水平にできるように、取り付け作業を 2 人で行ってください。水平器付きのスケールを使用するか、ラックの支柱の穴を数えて、スライド レールおよびサーバを水平にすることができます。

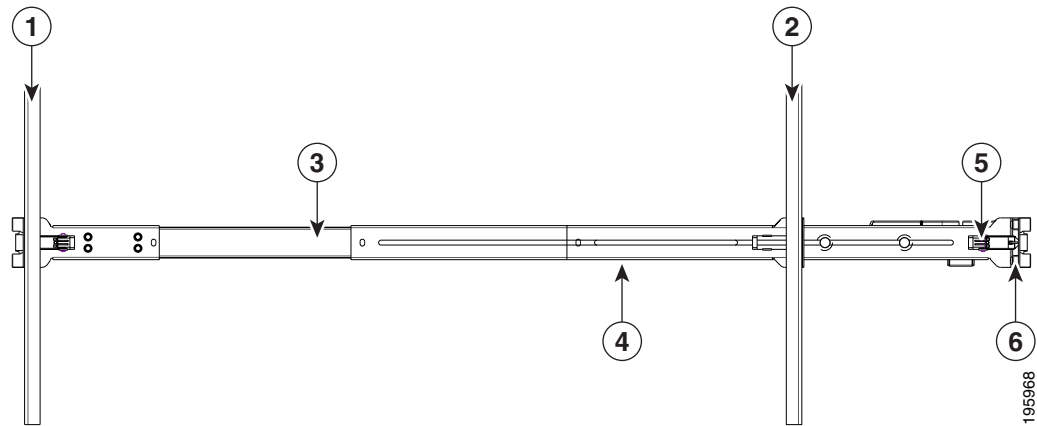
- a. ラックの支柱内側のスライド レール部品を、ラック後部の長さ調整ブラケットに合わせます（[図 2-1](#) を参照）。



(注) Cable Management Arm (CMA; ケーブル マネジメント アーム) を取り付ける予定である場合は、「Push」と表記されたプラスチック製の固定クリップが付いたスライド レール部品をラックの左側の支柱に取り付けてください。

- b. スライド レール部品の取り付けペグと固定クリップが前後のラック支柱の目的の穴にはまるまで、長さ調整ブラケットを押し込みます（[図 2-1](#) を参照）。スライド レールが前から後ろまで水平であることを確認します。

図 2-1 スライド レール部品の取り付け



1	左前側ラック支柱	2	左後側ラック支柱
3	スライド レール部品	4	長さ調整ブラケット
5	固定クリップ (部品両端に 1 つずつ)	6	取り付けペグ (部品両端に 2 つずつ)

- c. 2 つ目のスライド レール部品をラックの反対側に取り付けます。
- d. 2 つのスライド レール部品が水平で同じ高さであることを確認します。
- e. 内部のストッパーに当たって所定の位置に固定されるまで、各スライド レール部品の内側のスライド レールをラック前方へ引き出します。

ステップ 2 次の手順に従って、取り付けブラケットをサーバに取り付けます。

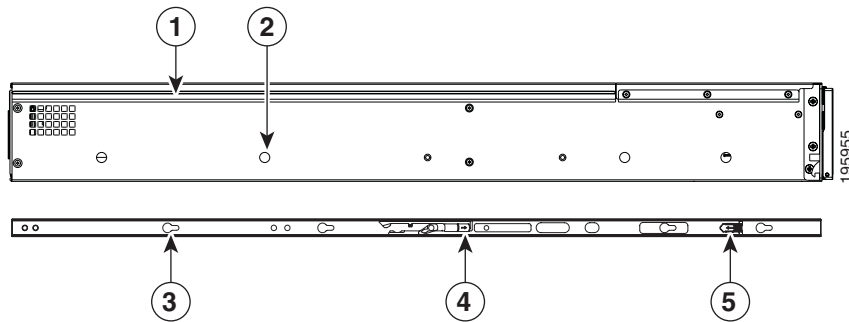
- a. 取り付けブラケットをサーバの側面に据えて、切り込みのある穴とサーバのペグの位置を合わせます。ブラケットのプラスチック製の取り付けリリース クリップがサーバの前面を向くようにします (図 2-2 を参照)。



(注) CMA フランジがある取り付けブラケットは、サーバ前方から見て左側面に取り付けてください。CMA フランジはサーバ後方に向かって配置します。

- b. 固定クリップがサーバ ペグにカチッとハマるまで、取り付けブラケットをサーバ後方に押し込みます。
- c. 残りの取り付けブラケットをサーバの反対側に取り付けます。

図 2-2 取り付けブラケットのサーバへの取り付け



1	サーバ背面	2	取り付けペグ (4 個)
3	取り付けブラケット	4	取り外しリリース クリップ
5	取り付けリリース クリップ	—	—

ステップ 3 次の手順に従って、サーバをスライド レールに装着します。

- a. サーバ側面に装着されている取り付けブラケットを、空のスライド レールの前部に合わせます。
- b. 内部のストッパーに当たって止まるまで、サーバをスライド レールに押し込みます。
- c. 各取り付けブラケットのプラスチック製の取り付けリリース クリップをサーバ後方に押し (図 2-2 を参照)、前部のフランジがラックの支柱に当たるまで、引き続きサーバをラックに押し込みます。

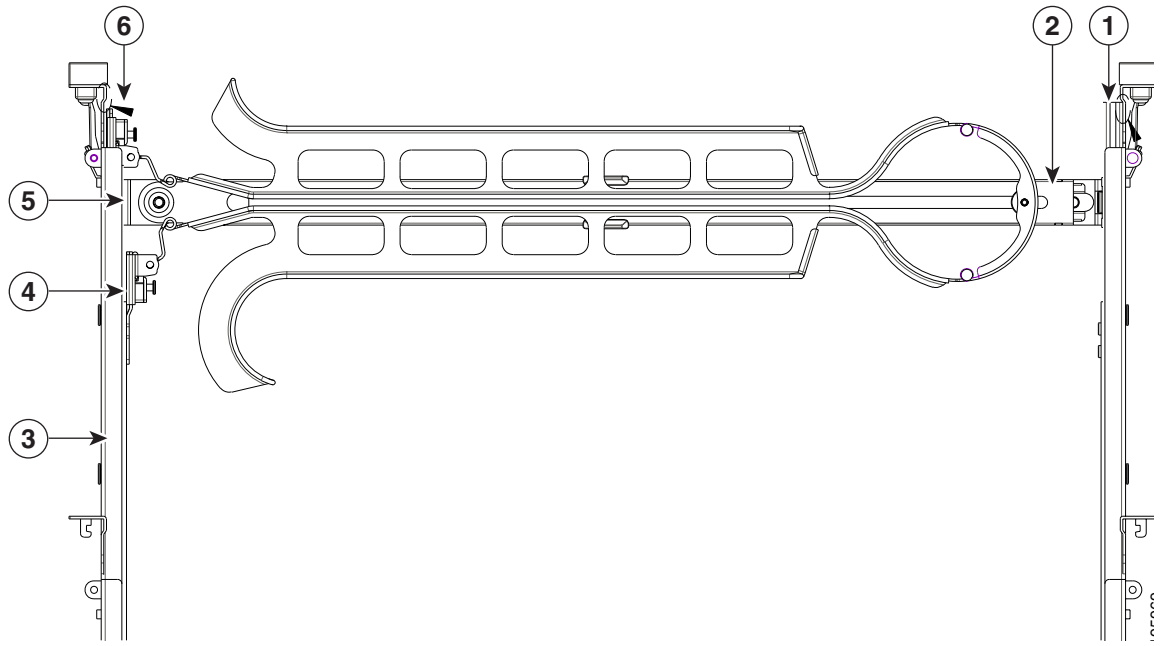
ステップ 4 次の手順に従って、CMA をスライド レールの後部に取り付けます。



(注) 次の手順での向きは、サーバの前方から見た向きです。

- a. スライド レール内側のプラスチック製固定フランジにはまるまで、CMA の長さ調整スライダの右端のプラスチック製クリップを、右スライド レールの後部にスライドさせます (図 2-3 を参照)。
- b. CMA の長さ調整スライダの左端が左スライド レール部品の後部と揃うまで、長さ調整スライダを伸ばします。
- c. 一番内側の CMA 取り付けクリップを左スライド レールの後部にスライドし、サーバに装着されている取り付けブラケットの CMA フランジにこのクリップを留めます (図 2-3 を参照)。
- d. CMA の長さ調整スライダの左端にある 溝付きの 2 つ穴のブラケットを左スライド レールに取り付けます。溝付きの 2 つ穴のブラケットが、スライド レールの内側の 2 つのペグに合うようにします (図 2-3 を参照)。
- e. 一番外側の CMA 取り付けクリップを、左スライド レールの CMA フランジに留めます (図 2-3)。

図 2-3 ケーブル マネジメント アームの取り付け



1	右スライドレールの後部（プラスチック製の固定フランジがこのレールの内側にあります）	2	CMA の長さ調整スライダ
3	左スライドレール部品の後部	4	一番内側の CMA 取り付けクリップ
5	CMA の長さ調整スライダの端にある溝付きの 2 つ穴のブラケット	6	一番外側の CMA 取り付けクリップ

ステップ 5 「サーバの接続と電源投入」(P.2-7) に進みます。

サーバの接続と電源投入

ここでは、サーバのコネクタとポートについて説明するほか、サーバの電源をオンにする方法を説明します。

ステップ 1 付属の電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次にその電源コードをアース済みの AC 電源コンセントに接続します。電源の仕様については、「電源仕様」(P.B-2) を参照してください。

AC 電力がサーバに供給されると、サービス プロセッサにすぐに電力が供給されます。電源ステータスは、次のように電源ステータス LED で確認することができます。

- LED が緑に点滅している場合は、サーバはスタンバイ電源モードになっています。電力が供給されているのは、サービス プロセッサと一部のマザーボード機能だけです。
- LED が消灯している場合は、サーバに電力が供給されていません。電源コードの接続と施設の電源を点検してください。

- ステップ 2** 10/100/1000 ギガビット イーサネットの RJ-45 ポートを使用してネットワークに接続します (図 1-2 を参照)。
- ステップ 3** 付属の KVM ケーブルを前面パネルのサーバ コンソール コネクタにつなぎ、キーボード、マウス、ビデオ モニタ、USB デバイスを接続します。詳細については、「[KVM ケーブル](#)」(P.A-1) を参照してください。
- ステップ 4** 電源ボタンを押して放し、AC 電力を供給してサーバをブートします (図 1-1 を参照)。このボタンは電源ステータス LED も兼ねており、サーバが主電源モードになっているときは緑に点灯します。



(注) サーバは、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP; ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル) サーバからネットワーク設定を取得するように工場出荷時設定になっています。ただし、次の手順では、静的な設定を対話型の操作で設定することをブート プロセス中に選択できます。

システムでブート処理が開始されます。オペレーティング システムがブートすると、ソフトウェアの基本的な設定を初期化できる状態になります。詳細については、Cisco.com の『*Deployment Guide for Cisco Media Experience Engine 3500*』を参照してください。



(注) デフォルトのユーザ名は **mxe-service** で、デフォルトのパスワードは **Cisco1** です。

BIOS の設定および BIOS ファームウェアの更新

ここには、システム BIOS に関する情報が記載されています。この項の構成は次のとおりです。

- 「[BIOS メニュー項目の設定の変更](#)」(P.2-8)
- 「[BIOS セットアップ ページの説明](#)」(P.2-9)
- 「[BIOS ファームウェアの更新](#)」(P.2-9)

BIOS メニュー項目の設定の変更

この項の手順を使用して、サーバの BIOS 設定を変更することができます。詳細な説明は BIOS 画面にも表示されます。

- ステップ 1** ブートアップ中にプロンプトが表示されたときに、**F2** キーを押して BIOS セットアップ ユーティリティを起動します。
- ステップ 2** 矢印キーを使用して BIOS メニューのページを選択します。
- ステップ 3** 矢印キーを使用して、変更するフィールドを強調表示します。
- ステップ 4** **Enter** キーを押して、変更するフィールドを選択し、フィールドの値を変更します。
- ステップ 5** [Exit] メニュー画面が表示されるまで、**→**キーを押します。
- ステップ 6** [Exit] メニュー画面の指示に従って、変更内容を保存し、セットアップ ユーティリティを終了します (または **F10** キーを押します)。**Esc** キーを押すと、変更内容を保存せずに終了することができます。

BIOS セットアップ ページの説明

表 2-1 には、BIOS セットアップ ページの概要が記載されています。ページの各設定フィールドの詳細な説明は、BIOS 画面に表示されます。

表 2-1 BIOS セットアップ ページの概要

画面	内容
Main	BIOS のバージョン、取り付けられているシステム メモリ、Quiet Boot および POST エラー パスを有効または無効にする設定、システムの日付と時刻を指定する設定に関する一般的な情報
Advanced	プロセッサ、メモリ、大容量記憶域コントローラ、シリアル ポート、USB、PCI を設定するために使用する設定サブメニュー
Security	管理者パスワードとユーザ パスワードを設定および変更するための設定
Server Management	Non-Maskable Interrupt (NMI; マスク不可能割り込み) の管理、システム イベント ログのクリア、ブート タイムアウトの指定を行うための設定。また、オペレーティング システムのプラグ アンド プレイおよび Advanced Configuration and Power Interface (ACPI; アドバンスド コンフィギュレーション アンド パワー インターフェイス) の設定があるほか、シリアル ポートのコンソール リダイレクトの設定、シリアル番号や BMC リビジョンなどのシステム情報の表示に使用するサブメニューもあります。
Boot Options	ネットワーク ブート、F2 プロンプトのブート タイムアウト、デバイスのブート順、ブート リトライ、USB デバイスのブート順を指定するための設定。また、CD-ROM デバイス、ハードディスク ドライブ、フロッピー ドライブのブート順の設定に使用するサブメニューもあります。
Boot Manager	この画面から選択して直接ブートできる有効なブート デバイスの一覧
Error Management	システム エラーとその説明および重大度の一覧
Exit	変更内容を保存または破棄して終了するオプション。また、現在の値をユーザ デフォルトとして保存したり、デフォルトの値をロードしたりするオプションもあります。

BIOS ファームウェアの更新

EFI インターフェイスを使用して BIOS ファームウェアを更新する手順は次のとおりです。

- ステップ 1** BIOS 更新パッケージと EFI IFlash ユーティリティを Cisco.com からダウンロードし、一時的に使用する場所に展開します。
- ステップ 2** BIOS ファイルと IFlash ユーティリティを USB メモリにコピーします。
- ステップ 3** USB メモリをサーバの USB ポートに挿入します。
- ステップ 4** サーバをブートし、[Boot Option] 画面を開くためのプロンプトが表示されたら **F6** キーを押します。
- ステップ 5** [Boot Option] 画面で [EFI Shell] を選択します。
- ステップ 6** シェル プロンプトで **map-r** と入力して USB メモリをマッピングします。
- ステップ 7** シェル プロンプトで **fs0:** と入力して、マウントした USB メモリにシェルを変更します。
- ステップ 8** プロンプトで **iflash32 /u /ni <BIOS_file_name>.cap** と入力して、新しい BIOS イメージをフラッシュします。

- ステップ 9** 更新の完了の通知とサーバのリブートを求めるプロンプトが画面に表示されるのを待ちます。通常、更新には 3 分ほどかかります。
- ステップ 10** サーバをリブートして更新を完了します。
-



CHAPTER 3

Cisco MXE 3500 の保守

この章では、ステータス LED を使用してハードウェアの問題を診断する方法と、ラック内のサーバを交換する方法を次の項で説明します。

- 「ステータス LED」 (P.3-1)
- 「ラック内のサーバの交換」 (P.3-6)

ステータス LED

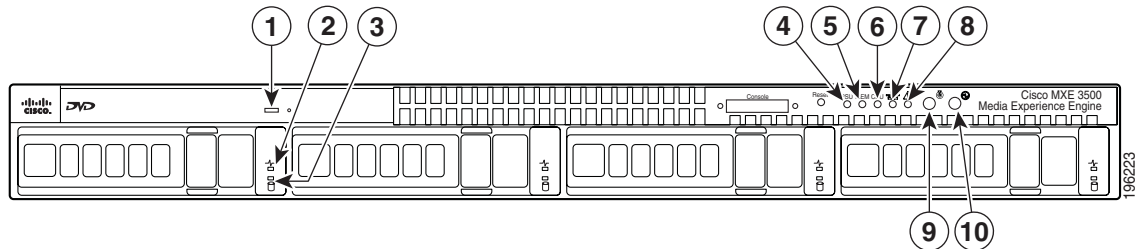
ここでは、サーバの LED の位置と解釈について説明します。LED を確認すると、ステータスおよびトラブルシューティングに関する情報が得られます。ここでは、次の内容について説明します。

- 「前面パネル LED」 (P.3-2)
- 「背面パネル LED」 (P.3-3)
- 「内部 LED」 (P.3-5)

前面パネル LED

図 3-1 には、前面パネル LED の名前と位置が示されています。

図 3-1 前面パネル LED



1	DVD アクティビティ LED	2	ハードドライブ障害 LED
3	ハードドライブ アクティビティ LED	4	電源装置障害 LED
5	メモリ障害 LED	6	CPU 障害 LED
7	ネットワーク アクティビティ LED	8	システム障害 LED
9	ロケータ LED/ロケータ ボタン	10	電源 ステータス LED/電源ボタン

表 3-1 には、図 3-1 に示されている LED の状態と解釈が記載されています。

表 3-1 前面パネル LED

LED の名前	状態
DVD アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：DVD ドライブは使用されていません。 緑の点滅：DVD ドライブはデータの読み取り中または書き込み中です。
ハードドライブ障害	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：ハードドライブは正常に動作しています。 オレンジ：このハードドライブに障害が発生しています。
ハードドライブ アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：ハードドライブ スレッドにハードドライブがありません。 緑：ハードドライブは動作可能な状態になっています。 緑の点滅：ハードドライブはデータの読み取り中または書き込み中です。
電源装置障害	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：すべての電源装置が正常に動作しています。 オレンジ：少なくとも 1 台の電源装置に障害が発生しています。
メモリ障害	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：すべての DIMM が正常に動作しています。 オレンジ：少なくとも 1 つのメモリバンクの DIMM に障害が発生しています。
CPU 障害	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：すべての CPU が正常に動作しています。 オレンジ：少なくとも 1 基の CPU に障害が発生しています。

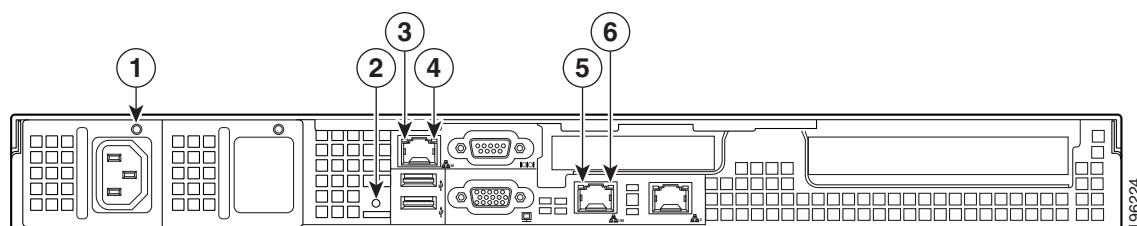
表 3-1 前面パネル LED (続き)

LED の名前	状態
ネットワーク アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：サーバは、電源がオフになっているか、スタンバイ電源モードになっています。 緑の点滅：サーバは主電源モードでネットワークと通信しています。点滅の速さはネットワーク アクティビティが増大するほど速くなります。
システム障害	<ul style="list-style-type: none"> 緑：サーバは正常に動作しています。 オレンジ (点灯)：サーバは正常に動作しています。何も作業する必要はありません。オレンジに点灯した状態の LED は、最大 2 基の電源装置の 1 つが構成されていることを示しています。Cisco MXE 3500 に付属する電源装置は 1 つだけで、2 つ目の電源装置はサポートされていません。 オレンジの点滅：保守作業が必要な状態が検出されました。他の LED を点検し、ログを確認して問題を特定してください。
ロケータ	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：ロケータ LED は使用されていません。 青の点滅：ロケータ LED/ボタンが押されました。ラック内のサーバが見つかりやすくなるように前面パネルと背面パネルのロケータ LED が点滅します。
電源ステータス	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：AC 電力が供給されていません。 緑の点滅：サーバはスタンバイ電源モードになっています。 緑：サーバは主電源モードになっています。 <p>これらの電源モードの定義については、「サーバの接続と電源投入 (P.2-7)」を参照してください。</p>

背面パネル LED

図 3-2 には、背面パネル LED の名前と位置が示されています。

図 3-2 背面パネル LED



1	電源装置ステータス LED	2	背面ロケータ LED
3	10/100 イーサネットリンク ステータス LED	4	10/100 イーサネット速度 LED
5	10/100/1000 ギガビットイーサネットリンク ステータス LED	6	10/100/1000 ギガビットイーサネット速度 LED

表 3-2 には、図 3-2 に示されている LED の状態と解釈が記載されています。

表 3-2 背面パネル LED


LED の名前	状態
電源装置ステータス	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：どの電源装置にも AC 電力が供給されていません。 緑：この電源装置は主電源モードで正常に動作しています。 緑の点滅：この電源装置はスタンバイ電源モードで正常に動作しています。 オレンジの点滅：この電源装置に AC 電力が供給されていません。 オレンジおよび緑の点滅：この電源装置は、過熱 (80°C/176°F) による警告状態になっています。この電源装置は、温度が再び仕様範囲内 (75°C/167°F) に戻ったときに、この状態から自動復旧します。 オレンジ：この電源装置に障害が発生しています。この原因は、電源装置が過熱 (90°C/194°F) によるクリティカル シャットダウン状態になったことである可能性があります。この電源装置は、温度が再び仕様範囲内 (75°C/167°F) に戻ったときに、この状態から自動復旧します。 <p>これらの電源モードの定義については、「サーバの接続と電源投入」(P.2-7) を参照してください。</p>
ロケータ	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：ロケータ LED は使用されていません。 青の点滅：前面パネルのロケータ LED/ ボタンが押されました。ラック内のサーバが見つかりやすくなるように前面パネルと背面パネルのロケータ LED が点滅します。



(注) 10/100 イーサネットのリンク ステータス LED と速度 LED を一緒に読み取って、次のように解釈します。

10/100 イーサネット リンクステータス (左)	<ul style="list-style-type: none"> リンク ステータスが消灯+速度が消灯：このポートにはリンクが存在しません。
10/100 イーサネット速度 (右)	<ul style="list-style-type: none"> リンク ステータスが消灯+速度が緑：半二重、10Mbps のリンクが存在します。 リンク ステータスがオレンジ+速度が緑：半二重、100Mbps のリンクが存在します。 リンク ステータスが消灯+速度が緑の点滅：全二重、10Mbps のリンクが存在します。 リンク ステータスがオレンジ+速度が緑の点滅：全二重、100Mbps のリンクが存在します。

表 3-2 背面パネル LED (続き)

LED の名前	状態
 (注) 10/100/1000 ギガビットイーサネットのリンク ステータス LED と速度 LED を一緒に読み取って、次のように解釈します。	
10/100/1000 ギガビットイーサネット リンク ステータス (左)	<ul style="list-style-type: none"> • リンク ステータスが消灯+速度が消灯：このポートにはリンクが存在しません。 • リンク ステータスが消灯+速度が緑：半二重、10Mbps のリンクが存在します。 • リンク ステータスが緑+速度が緑：半二重、100Mbps のリンクが存在します。 • リンク ステータスがオレンジ+速度が緑：半二重、1000Mbps のリンクが存在します。 • リンク ステータスが消灯+速度が緑の点滅：全二重、10Mbps のリンクが存在します。 • リンク ステータスが緑+速度が緑の点滅：全二重、100Mbps のリンクが存在します。 • リンク ステータスがオレンジ+速度が緑の点滅：全二重、1000Mbps のリンクが存在します。
10/100/1000 ギガビットイーサネット速度 (右)	

内部 LED

図 3-3 には、マザーボードにある内部 DIMM 障害 LED の名前と位置が示されています。各マザーボードの DIMM スロットの位置は次のとおりです。

F1	DS56	C1	DS59
F2	DS60	C2	DS63
E1	DS53	B1	DS58
E2	DS55	B2	DS62
D1	DS54	A1	DS57
D2	DS52	A2	DS61

図 3-3 内部 LED

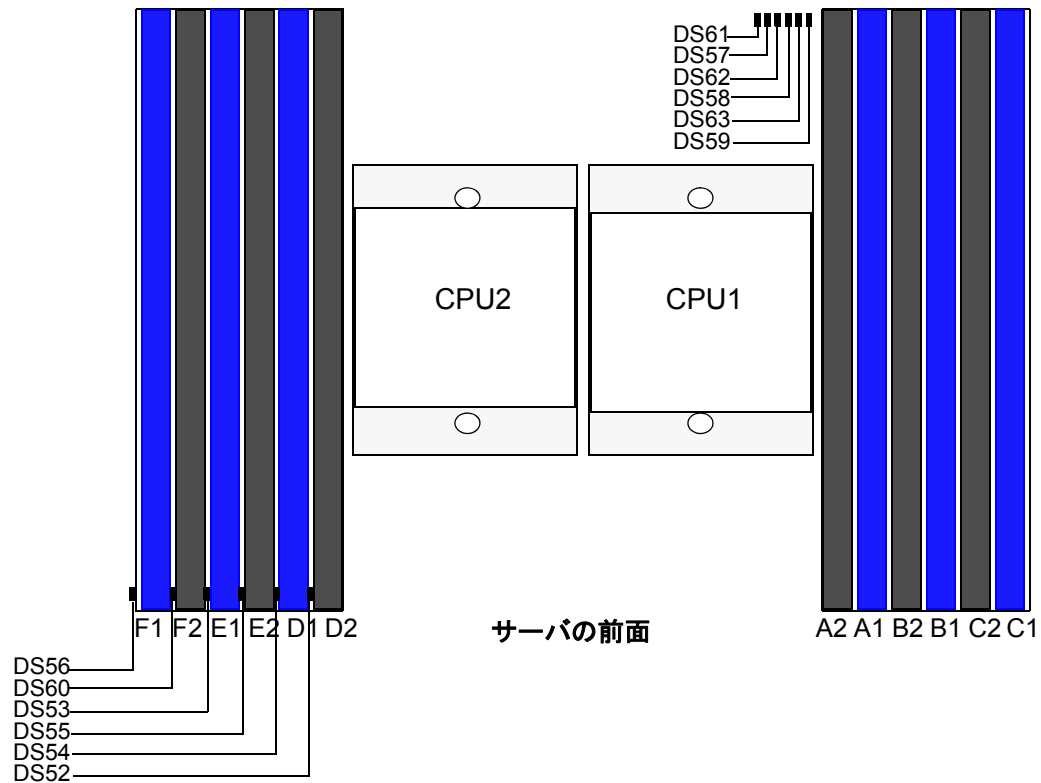


表 3-3 には、図 3-3 に示されている LED の状態と解釈が記載されています。

表 3-3 内部 LED

LED の名前	状態
DIMM 障害	<ul style="list-style-type: none"> 消灯：この DIMM は正常に動作しています。 オレンジ：この DIMM に障害が発生しています。

ラック内のサーバの交換

ここでは、次の内容について説明します。

- 「必要な工具」 (P.3-7)
- 「サーバのシャットダウンおよび電源オフ」 (P.3-7)
- 「ラック内のサーバの取り出しと交換」 (P.3-8)



警告

この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行う必要があります。
ステートメント 1030

**警告**

この装置には複数の電源装置が接続できます。すべての接続を取り外し、この装置の電源を完全に遮断する必要があります。
ステートメント 1028

必要な工具

この章の手順は、次の器具を使用して実行します。

- No.2 プラス ドライバ
- No.1 プラス ドライバ
- ラジオペンチ
- 静電気防止用（ESD）ストラップ、または接地マットなどの他の接地用器具

サーバのシャットダウンおよび電源オフ

サーバは次の 2 つの電源モードで動作します。

- 主電源モード：すべてのサーバ コンポーネントに電力が供給され、ハード ドライブの任意のオペレーティング システムを実行することができます。
- スタンバイ電源モード：サービス プロセッサと冷却ファンのみに電力が供給されます。このモードでは、サーバの電源を安全にオフにすることができます。

サーバの前面パネルの**電源**ボタンを使用して、グレースフル シャットダウンまたは緊急シャットダウン（ハード シャットダウン）を実行できます。**電源**ボタンを使用する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 電源ステータス LED の色を確認します（「**前面パネル LED**」(P.3-2) を参照）。

- 緑は、サーバが主電源モードで動作しており、サーバの電源を安全にオフにするためにサーバをシャットダウンする必要があることを示しています。**ステップ 2** に進んでください。
- オレンジは、サーバがすでにスタンバイ モードになっており、サーバの電源を安全にオフにできることを示しています。**ステップ 3** に進んでください。

ステップ 2 次の手順に従って、グレースフル シャットダウンまたはハード シャットダウンを実行します。

**注意**

データの損失またはオペレーティング システムの損傷を防ぐため、常にオペレーティング システムのグレースフル シャットダウンを実行する必要があります。

- グレースフル シャットダウン：**電源**ボタンを押して放します。オペレーティング システムでグレースフル シャットダウンが実行され、サーバがスタンバイ モードに移行します。移行すると、電源ステータス LED がオレンジになります。
- 緊急シャットダウン：**電源**ボタンを 4 秒間押したままにして、主電源を強制的にオフにし、すぐにスタンバイ モードにします。

ステップ 3 サーバの電源装置から電源コードを取り外して、サーバの電源を完全にオフにします。

ラック内のサーバの取り出しと交換

**警告**

ラックが正しく固定されていないと危険です。保守のためにユニットをスライドする前に、ラックの固定機構を機能させるか、ラックを床にボルトで固定する必要があります。ラックを固定できていないと、ラックが倒れるおそれがあります。
ステートメント 1048

ラック内のサーバの取り外しまたは交換を行う手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** 次の手順に従って、サーバをラックから取り外します。
- すべてのケーブルをサーバから取り外します。CMA を経由するケーブルはそのままにしておいてかまいません。
 - サーバ前部をラックの各支柱に固定している 2 個の取り付けネジを緩めます。
 - スライド レールが内部ロックに当たって止まるまで、サーバをラック前部から引き出します。
 - 各スライド レールにある取り外しリリース クリップを押し (図 2-2 (P.2-6) を参照)、サーバがスライド レールから離れるまでサーバを水平に引き出します。
- ステップ 2** 次の手順に従って、ラック内のサーバを交換します。
- サーバ側面に装着されている取り付けブラケットを、空のスライド レールの前部に合わせます。
 - スライド レールが内部のストッパーに当たって止まるまで、サーバをスライド レールに押し込みます。
 - 各スライド レールにある取り付けリリース クリップを押し (図 2-2 (P.2-6) を参照)、前部のフランジがラックの支柱に当たるまで、引き続きサーバを水平に押し込みます。
 - 各フランジのネジを締めて、サーバをラックの支柱に固定します。



APPENDIX A

ケーブルおよび電源コードの仕様

この付録では、制御装置および電源接続の配線とポートの仕様を説明します。この付録の内容は次のとおりです。

- 「KVM ケーブル」 (P.A-1)
- 「サポートされている電源コードとプラグ」 (P.A-2)

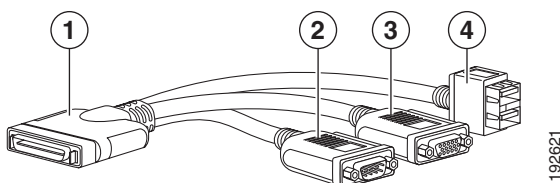
KVM ケーブル

KVM ケーブルを使用してサーバに接続します。このケーブルには、DB9 シリアル コネクタ、モニター用 VGA コネクタ、キーボードおよびマウス用デュアル USB ポートが装備されています。このケーブルにより、サーバで実行されているオペレーティング システムと BIOS を操作できます。

このサーバは、シスコの次のコンポーネントおよび部品番号をサポートしています。

サポートされているコンポーネント	部品番号
KVM ケーブル	37-1016-01

図 A-1 KVM ケーブル



1	サーバ側コネクタ	2	DB9 シリアル コネクタ
3	モニター用 VGA 接続	4	マウスおよびキーボード用の 2 ポート USB コネクタ

サポートされている電源コードとプラグ

各電源装置には個別の電源コードがあります。標準の電源コードまたはジャンパ電源コードは、IEC 60320 C19 コンセントのある Power Distribution Unit (PDU; 配電ユニット) への接続に使用できます。ラックで使用するジャンパ電源コードは、必要に応じて標準の電源コードの代わりに使用できます。詳細については、シスコのテクニカルサポートにお問い合わせください。

標準の電源コードには、PDU との接続側に IEC C19 コネクタが付いています (PDU はシャーシ後部の一番下のスロットにあります)。オプションのジャンパ電源コードには、シャーシの PDU との接続側に IEC C19 コネクタが付いているほか、IEC C19 コンセントとの接続側に IEC C20 コネクタが付いています。



(注)

サーバに付属する認定済みの電源コードまたはジャンパ電源コードのみがサポートされています。

表 A-1 に、電源装置の電源コードを示します。

表 A-1 サーバの電源コード

ケーブル タイプ	部品番号	説明	補足
CAB-N5K6A-NA	37-0910-01	N5000 AC 電源ケーブル、6A、250V、北米、2.5m	北米
CAB-AC-250V/13A	37-0104-01	N5000 AC 電源ケーブル、13A、250V、北米、2.5m	北米
CAB-9K12A-NA	72-0770-01	N5000 電源コード、125VAC 15A NEMA 5-15 プラグ、北米、2.5m	北米
CAB-C13-C14-JMPR	72-4128-01	N5000 AC 電源ケーブル、6A、250V、電源ストリップタイプ	電源ストリップタイプ
SFS-250V-10A-AR	37-0095-01	N5000 AC 電源ケーブル、10A、250V、アルゼンチン、2.5m	アルゼンチン
CAB-9K10A-AU	72-0774-01	N5000 AC 電源ケーブル、10A、250V、オーストラリア、2.5m	オーストラリア
SFS-250V-10A-CN	37-0343-01	N5000 AC 電源ケーブル、10A、250V、中国、2.5m	中国
CAB-9K10A-EU	72-0771-01	N5000 AC 電源ケーブル、10A、250V、ヨーロッパ、2.5m	ヨーロッパ
SFS-250V-10A-ID	37-0863-01	N5000 AC 電源ケーブル、10A、250V、インド、2.5m	インド
SFS-250V-10A-IS	37-0344-01	N5000 AC 電源ケーブル、10A、250V、イスラエル、2.5m	イスラエル
CAB-9K10A-IT	72-0772-01	N5000 AC 電源ケーブル、10A、250V、イタリア、2.5m	イタリア
CAB-9K10A-SW	37-0727-01	N5000 AC 電源ケーブル、10A、250V、スイス、2.5m	スイス
CAB-9K10A-UK	72-0773-01	N5000 AC 電源ケーブル、10A、250V、英国、2.5m	英国

図 A-2 CAB-N5K6A-NA 電源コード

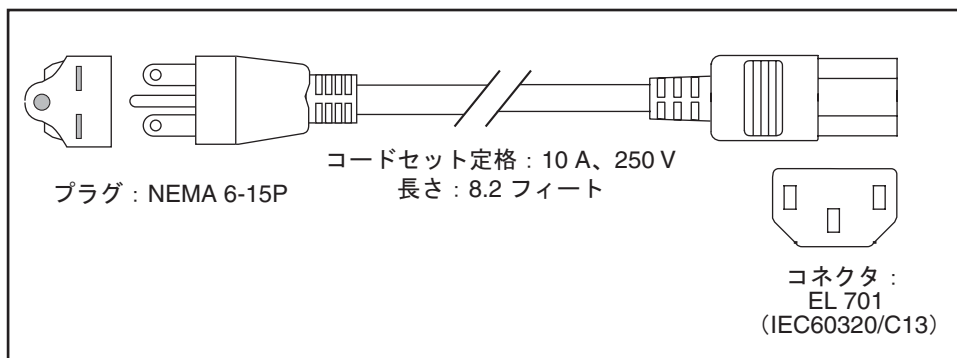


図 A-3 CAB-AC-250V/13A 電源コード

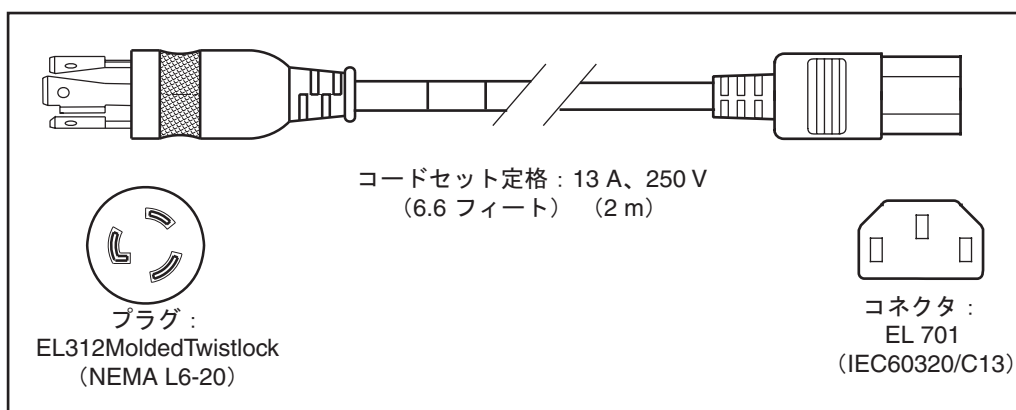


図 A-4 CAB-9K12A-NA 電源コード

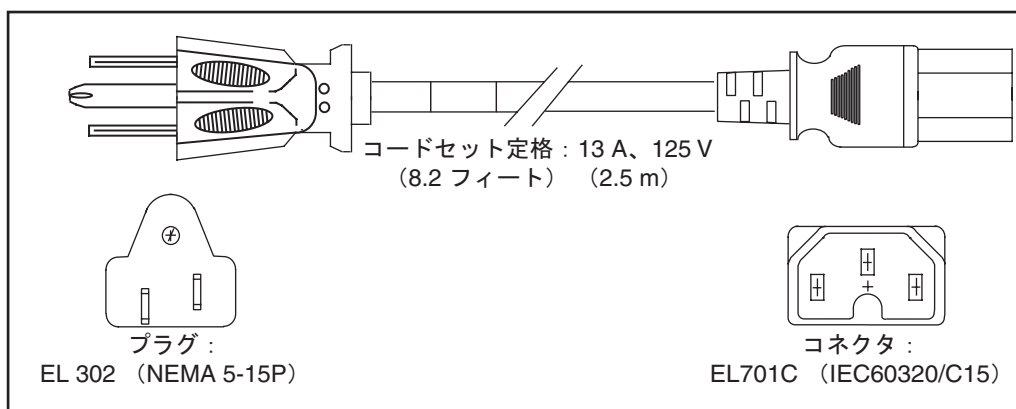


図 A-5 CAB-C13-C14-JMPR 電源コード

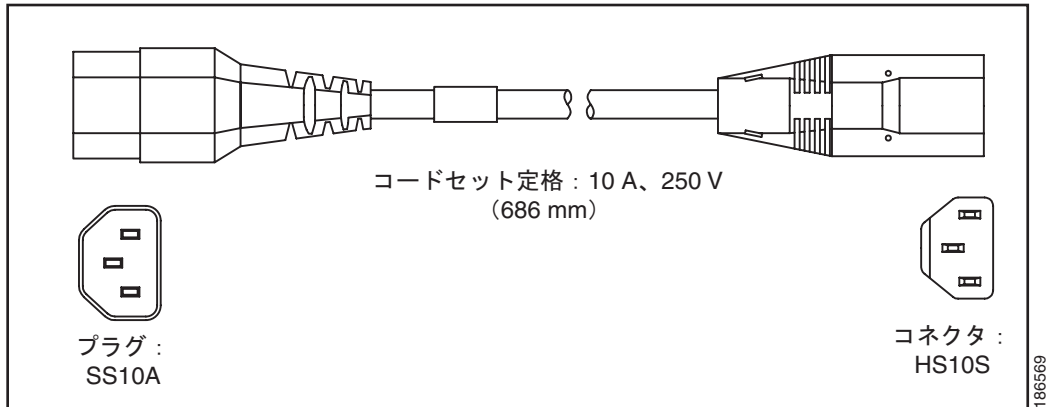


図 A-6 SFS-250V-10A-AR 電源コード

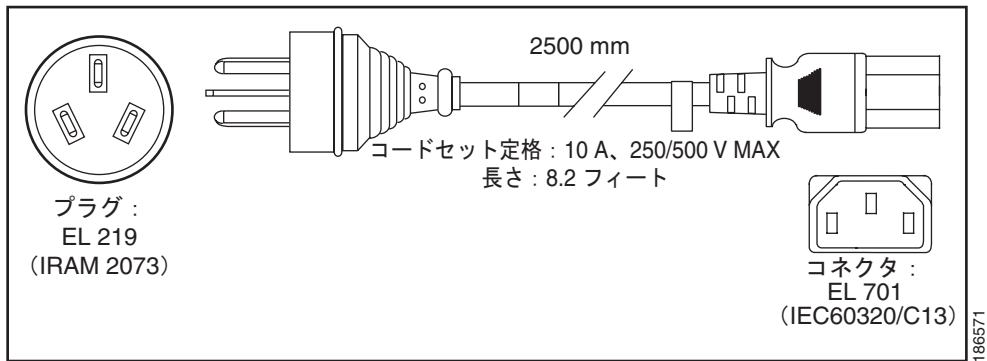


図 A-7 CAB-9K10A-AU 電源コード

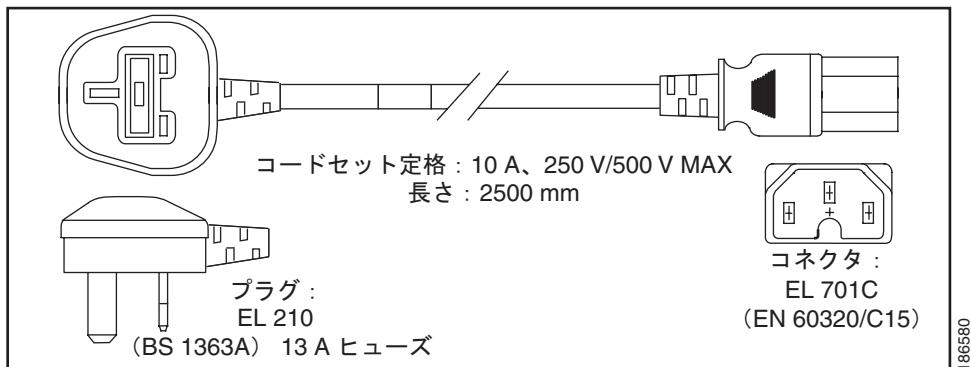


図 A-8 SFS-250V-10A-CN 電源コード

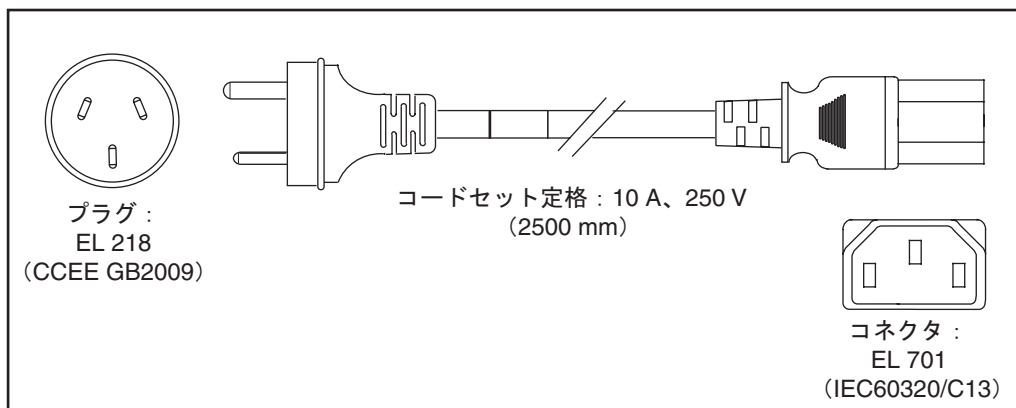


図 A-9 CAB-9K10A-EU 電源コード

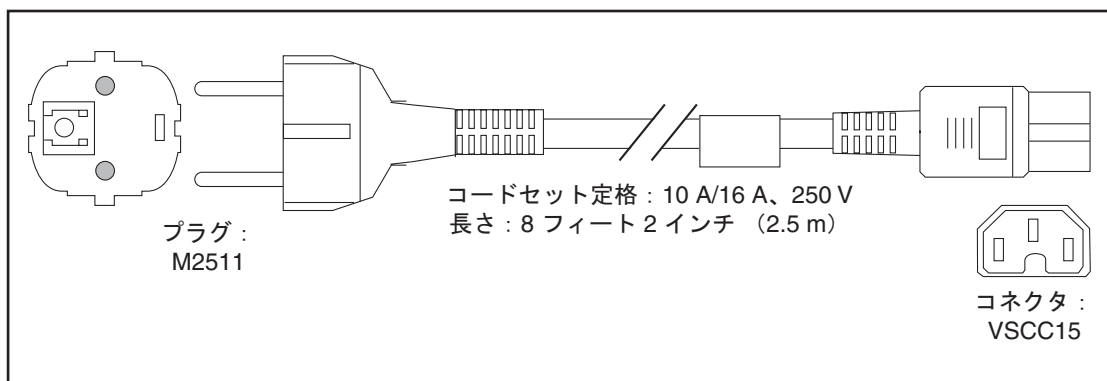


図 A-10 SFS-250V-10A-ID 電源コード

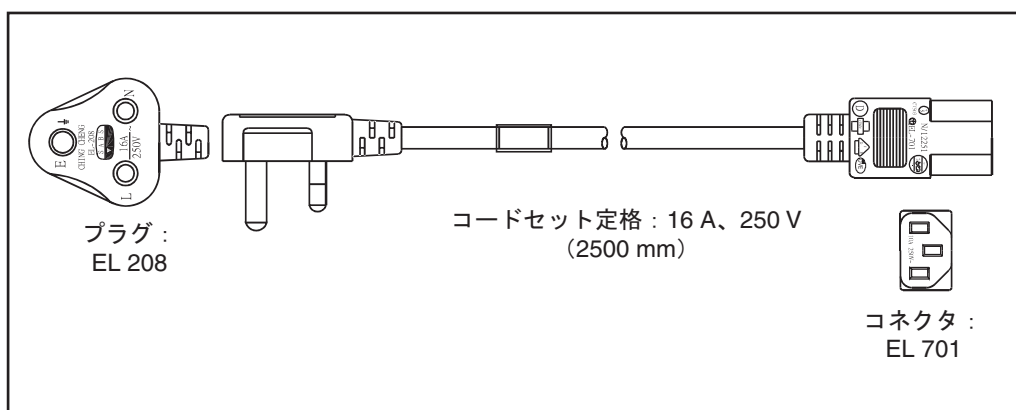


図 A-11 SFS-250V-10A-IS 電源コード

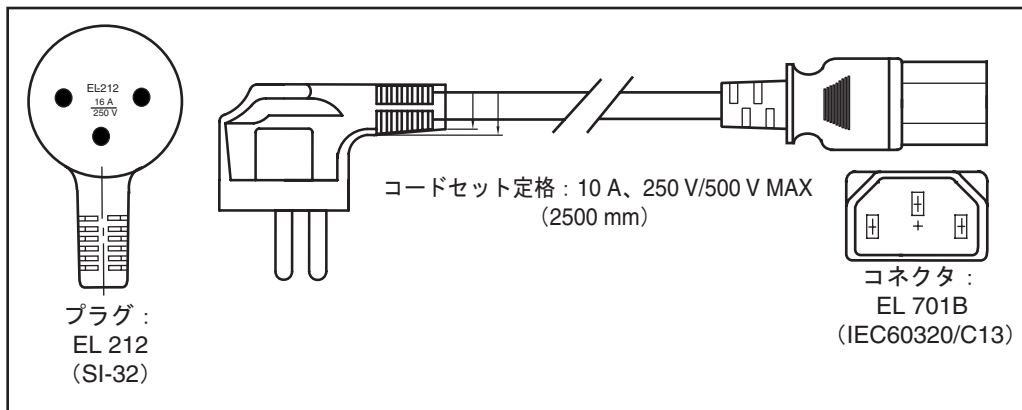


図 A-12 CAB-9K10A-IT 電源コード

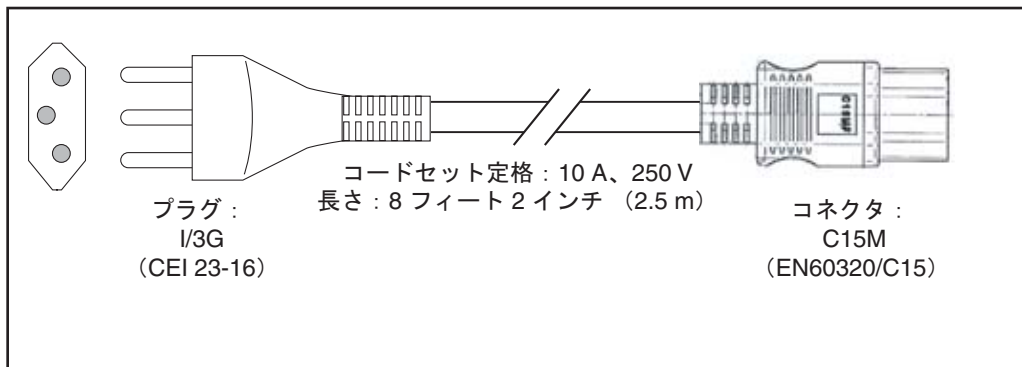


図 A-13 CAB-9K10A-SW 電源コード

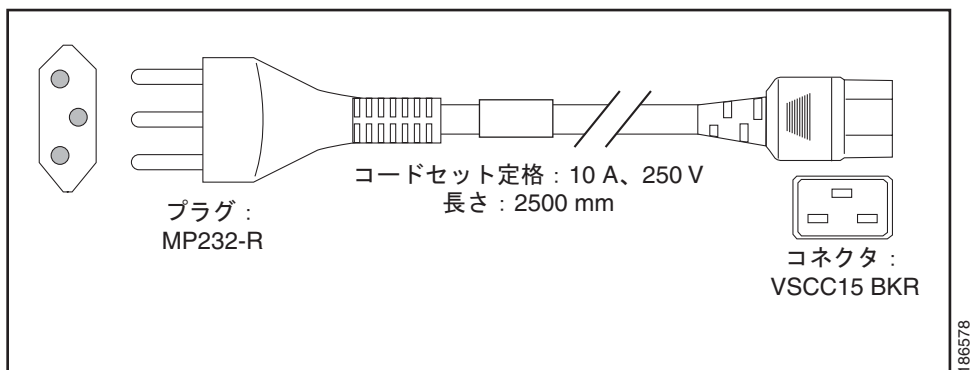
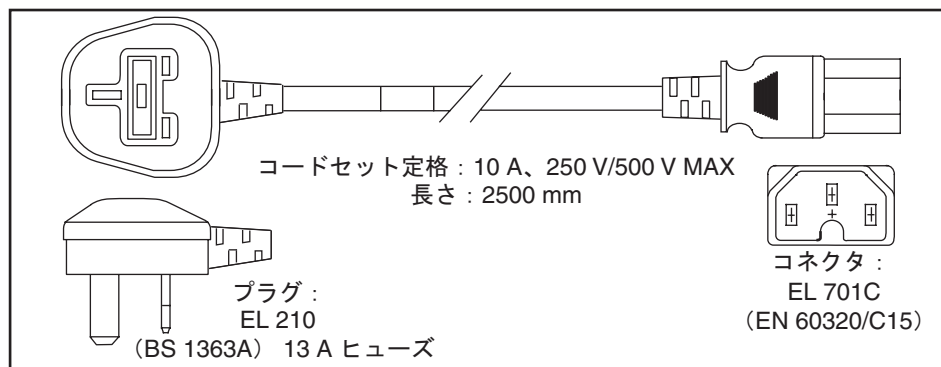


図 A-14 CAB-9K10A-UK 電源コード



186580

■ サポートされている電源コードとプラグ



APPENDIX B

技術仕様

この付録には、Cisco MXE 3500 の技術仕様が記載されています。また、この付録は次の項で構成されています。

- 「物理的仕様」(P.B-1)
- 「環境仕様」(P.B-2)
- 「電源仕様」(P.B-2)



(注)

ケーブルおよびコネクタの仕様は、付録 A「ケーブルおよび電源コードの仕様」に記載されています。

物理的仕様

表 B-1 は、サーバの物理的仕様を示しています。

表 B-1 物理的仕様

説明	仕様
高さ	4.32cm (1.70 インチ)
幅	43.00cm (16.92 インチ)
奥行	70.60cm (27.80 インチ)
重量	19.28kg (42.50 ポンド)

環境仕様

表 B-2 は、サーバの環境仕様を示しています。

表 B-2 環境仕様

説明	仕様
動作温度： 減率 1°C/304m (1,000 フィート)、最大高度 3,048m (10,000 フィート)	10 ~ 35°C (50 ~ 95°F)
非動作温度： 高度 0 ~ 12,000m (0 ~ 40,000 フィート)	-40 ~ 65°C (-40 ~ 149°F)
湿度 (RH)、結露なし	5 ~ 93%
高度	0 ~ 3,048m (0 ~ 10,000 フィート)
騒音レベル (dBA)	83 dB 音響パワー (通常動作温度時)

電源仕様

表 B-3 は、各電源装置 (モデル YM-2651B C01R)
(Cisco 部品番号 R2X0-PSU2-650W) の仕様を示しています。

表 B-3 電源装置の仕様

説明	仕様
AC 入力電圧	定格 115 ~ 230VAC (範囲：90 ~ 264VAC)
AC 入力周波数	定格 50 ~ 60Hz (範囲：47 ~ 63Hz)
最大 AC 入力電流	10 アンペア
各電源装置の最大出力電力	650W (取り付けられる電源装置は 1 基のみ。サポートされるのも 1 基のみです)
電源装置の出力電圧	主電源：12VDC スタンバイ電源：5VDC